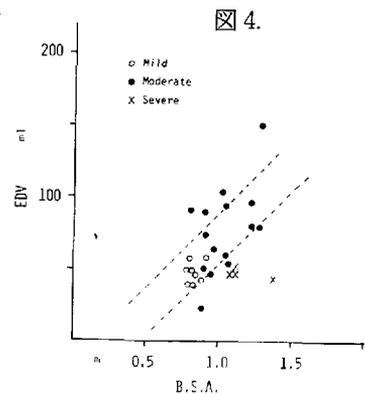
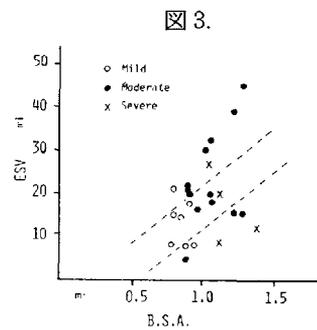
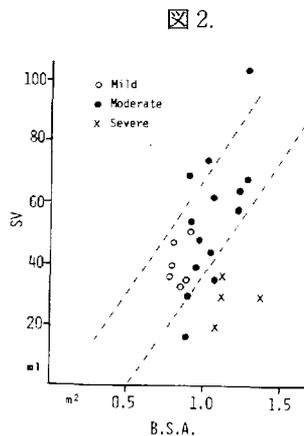
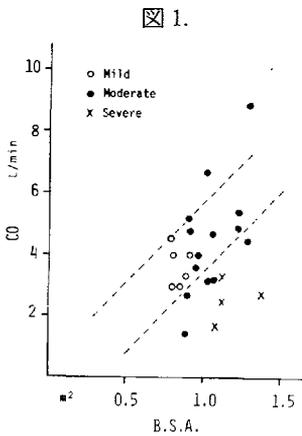


## 28 筋ジストロフィー症の非観血的心機能の検討

国立療養所宇多野病院

吉岡 三恵子 (小児科) 城 鐵 男  
森 洋 一 (国立京都病院小児科)

去年はUCG、MICを用いてデュシャンヌ型筋ジストロフィー症25例、肢帯型6例、先天型7例及び脊髄性進行性筋萎縮症8例の計46例について心機能を比較検討した。その結果UCGによるEDVI、ESVI、SI、CIは各疾患群間で有意の差を認めなかったが、EDVI、SI、CIが Duchenne 型 (D型) 重症例で低値を示した。今回、D型PMDについて、このデータを体表面積との関係において検討した。図1.及び2.は体表面積とCO、SVの関係を示したものであるが、体表面積の増加に伴って、ふつうCO、SVは点線で示すように増加するのであるが、重症 (×印) の例ではいずれも増加がみられなかった。軽症 (○印) や中等症 (●印) では大体表表面積の増加に伴って増加している。図3.及び4.では体表面積とESV、EDVの関係をみている。



EDVが重症例で体表面積に伴って上昇していないのが注目されるが、ESVには一定の関係がみられていない。

次にLVM (心筋重量) を下記の式から計算した。

$$LVM = \frac{\pi}{3} \left\{ (Dd + 2LVPWT)^2 (Dd + LVPWT) - Dd^3 \right\} \times 1.05$$

図5.に示すように、心筋重量も重症例では低下し、心肥大の形をとっていないことがわかる。

今年度の計画であるECHOの諸指標の経年変化については、今回はD型について主に検討してみた。約2年半の経過をおいて前後の値を比べてみた。

以下点線で示したのは重症例の2例が肺炎などで心不全状態となり、ジギタリス投与中の値を調べたことを示している。図6.及び7.に示すように各例については、一般に軽快とも増悪ともいえず結果であるが、ジギタリスを用いた1例は著明によくなっている。しかし他の1例には反応がほとんどみられておらず、病前にきわめて心機能の悪い例にはジギタリスも余り効果はないが、良い例には効果をあげていることがわかる。

図8.にはEFと mean Vcf の経年変化を示す。軽症例では余り変化がないが、中等症ではかなりの低下が目立つ。又重症の2例にジギタリスを用いたのではEF、mean Vcf の投与前の値が良いものにはかなりの効果のあることがわかる。図9.にはSEVMとDEV Mの経年変化を示すがSEVMが重症例に低下がみられ、又ジギタリスがDEV Mにおけると同様、効果をあげているのがわかる。

図5.

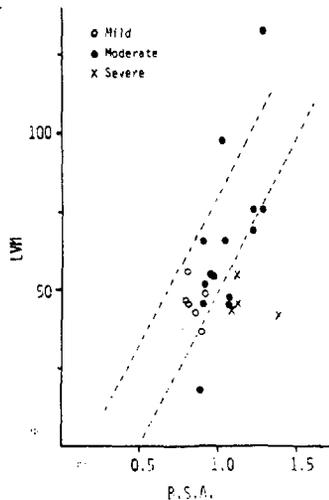


図6.

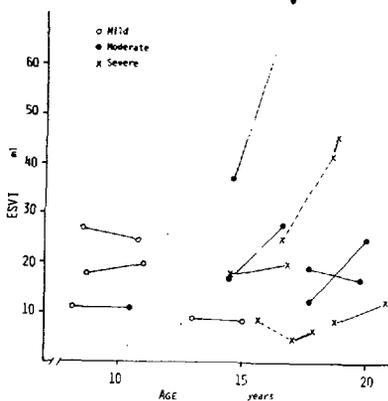
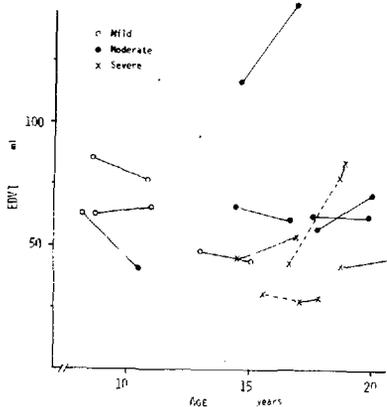
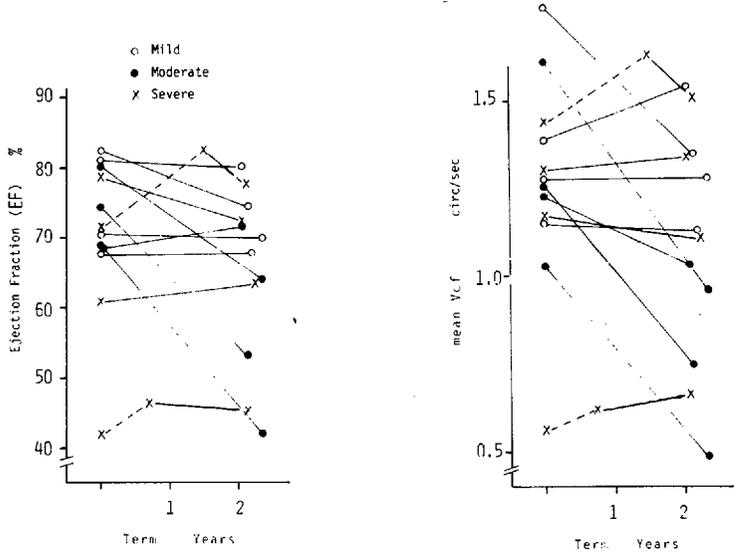


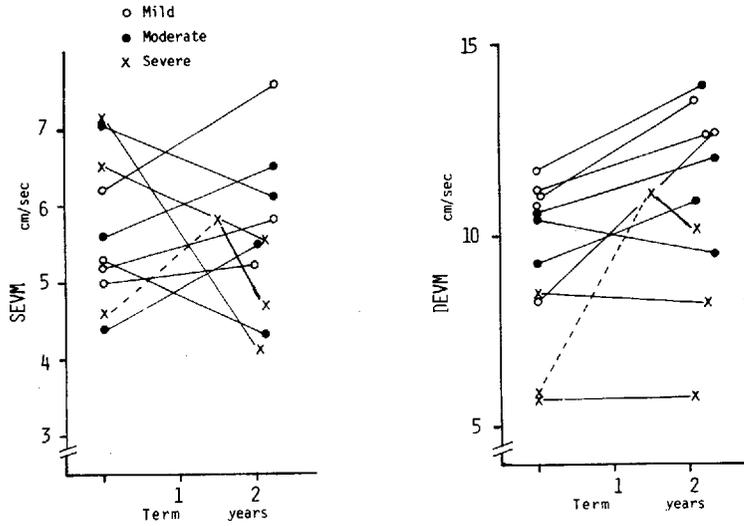
図7.



☒ 8.



☒ 9.



↓  
**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります  
↓

去年は UCG、MIC を用いてデュシャンヌ型筋ジストロフィー症 25 例、肢帯型 6 例、先天型 7 例及び脊髄性進行性筋萎縮症 8 例の計 46 例について心機能を比較検討した。その結果 UCG による EDVI、ESVI、SI、CI は各疾患群間で有意の差を認めなかったが、EDVI、SICI が Duchenne 型(D 型)重症例で低値を示した。今回、D 型 PMD について、このデータを体表面積との関係において検討した。図 1.及び 2.は体表面積と CO、SV の関係を示したものであるが、体表面積の増加に伴って、ふつう CO、SV は点線で示すように増加するのであるが、重症(×印)の例ではいずれも増加がみられなかった。軽症(○印)や中等症(□印)では大体体表面積の増加に伴って増加している。図 3.及び 4.では体表面積と ESV、EDV の関係をもっている。